

No. 003

平成11年度青年海外協力隊
巡回指導調査報告書
(マラウイ・ザンビア・ポーランド)

JICA LIBRARY



J 1159175 [7]

平成12年7月

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局

青海二
J R
00-10

JICA

518

36

JV2

LIBRARY

目次

1	調査団名	1
2	調査期間（全体）	1
3	団員構成	1
4	調査目的	1
5	調査行程	2
6	主な面会者	3
7	調査結果	
	（要旨）	7
	（調査内容詳細）	
	（1）交通事故再発防止等の検討	8
	（2）協力隊活動現場視察等	10
	（3）VSO本部との意見交換	17

参考資料：

隊員配置図（マラウイ・ザンビア・ポーランド）



1159175 [7]

1 調査団名

青年海外協力隊巡回指導調査団（マラウイ・ザンビア・ポーランド）

2 調査期間（全体）

平成12年3月19日～同4月3日（16日間）

3 団員構成

氏名	担当業務	所属	派遣期間
つじおか まさお			
(1) 辻岡 政男	総括	国際協力事業団 青年海外協力隊事務局調査役	3/19～4/3
たなか おさむ			
(2) 田中 理	業務調整	国際協力事業団 青年海外協力隊事務局国内課	3/19～4/3

4 調査目的

(1) アフリカ地域に派遣されている隊員の活動は、厳しい自然・生活条件及び派遣前に訓練した言語以外の現地語を日常生活で使用する等、特有の課題を有している。また、昨今、交通及び治安上の安全対策の充実が急務となっており、特にマラウイ・ザンビアの2国は派遣隊員の数が多く、より充実したケアを必要としている。

上記の背景を踏まえて、同地域における協力隊活動現場を視察し、活動上の課題を把握、現地事務所と協議し、今後の募集・選考方針、派遣計画、隊員の支援体制、安全対策の整備等について検討を進める。

(2) ポーランドについては、同国への協力内容を特徴づけている文化系とスポーツ系職種隊員及び重点職種の柔道・空手隊員の協力成果について課題を把握する。本件調査団は、隊員の活動状況を視察し、問題点等についてポーランド事務所と協議を行い、東欧地域への今後の隊員派遣方針の検討に資することを目的とする。

(3) 英国VSOにて、ボランティアの安全対策を中心に、評価システム、及び派遣計画等について意見交換し、今後の協力隊の実施管理体制の整備に資することを目的とする。

5 調査行程

日順	月 日	曜日	調査行程	宿泊地	備考
1	3 / 19	日	18:05 成田発 (JL707) 23:00 バンコク着	機中泊	
2	3 / 20	月	00:50 バンコク発 (SA289) 07:00 ヨハネスブルク着 10:20 ヨハネスブルク発 (SA170) 12:40 リロンゲエ着 15:30 事務所との協議 (安全対策)	リロンゲエ	
3	3 / 21	火	08:00 ホテル発、ブランタイヤへ移動 13:30 ブランタイヤ着 14:30 故網脇隊員事故現場視察 15:50 高橋隊員 (システムエンジニア) 活動現場視察 19:00 隊員との意見交換会	ブラン タイヤ	
4	3 / 22	水	08:00 ホテル発 11:30 横尾隊員 (理数科教師) 活動現場視察 15:30 長瀬隊員 (司書) 活動現場視察 16:30 浅野隊員 (自動車整備) 活動現場視察 19:30 交通安全について隊員との意見交換	ブラン タイヤ	
5	3 / 23	木	07:15 ホテル発 07:20 故網脇隊員事故現場視察 08:00 西尾隊員自宅訪問、盗難現場視察 08:20 福島隊員 (手工芸) 活動現場視察 09:00 OXFAM 事務所訪問 10:30 リロンゲエへ移動 15:00 リロンゲエ着、ホテルチェックイン 16:30 事務所との協議 (治安対策、募集・選考・訓練)	リロンゲエ	
6	3 / 24	金	08:50 ホテル発 09:00 大塚隊員 (システムエンジニア) 活動現場視察 10:15 大塚隊員自宅訪問 11:15 空港着、チェックイン 13:35 リロンゲエ発 (QM183) 15:05 ルサカ着 16:30 事務所との協議 (問題点・安全対策)	ルサカ	
7	3 / 25	土	09:00 ホテル発 09:30 所得創出活動展示会視察 14:00 杉山隊員 (村落開発普及員)	ルサカ	
8	3 / 26	日	08:30 ホテル発 09:00 勝矢シニア隊員 (窯業)、川又隊員 (市場調査)、加藤隊員 (陶磁器) 活動現場視察 (家庭用粘土コンロ (TEXCOMAプロジェクト)) 12:30 国立博物館視察 田島隊員 (視聴覚教育) 14:00 隊員との意見交換会	ルサカ	
9	3 / 27	月	08:15 ホテル発 09:30 柿沼隊員 (村落開発普及員) 活動現場視察 15:00 日本大使館表敬 16:00 事務所にて大使館表敬報告 17:00 Peace Corps 事務所訪問	ルサカ	

10	3/28	火	09:00 ホテル発 08:40 本城隊員(理数科教師)活動現場視察 11:30 VSO事務所訪問 13:00 事務所との協議 16:30 空港着、チェックイン 18:30 ルサカ発(BA2052)	機中泊	
11	3/29	水	05:50 ガトウィック着、ホテルチェックイン 09:45 ホテル発 10:20 VSO本部着、代表者表敬 10:30 意見交換1(募集について) 11:30 意見交換2(活動評価について) 13:30 VSO発 15:00 事務所にて打ち合わせ(出張経過報告)	ロンドン	
12	3/30	木	08:00 ホテル発 08:50 ヒースロー空港着、チェックイン 10:40 ヒースロー発(BA4450) 14:05 ワルシャワ着 15:30 大使館表敬 16:00 クラクフへ移動 18:30 クラクフ着、ホテルチェックイン 19:00 岡田隊員と面談	クラクフ	
13	3/31	金	13:00 岡田隊員(日本語教師)活動現場視察 14:30 ビトムへ移動 16:30 武田隊員(柔道)活動視察	ビトム	
14	4/1	土	09:00 ホテル発、ワルシャワへ移動 途中、クラクフにて昼食・武田隊員との面談 20:50 ワルシャワ着、ホテルチェックイン	ワルシャワ	
15	4/2	日	12:30 事務所との協議 15:30 空港着、チェックイン 17:00 ワルシャワ発(LO379) 18:45 フランクフルト着 20:50 フランクフルト発(JL408)	機中泊	
16	4/3	月	14:55 成田着		

6 主な面会者

【マラウイ】

JICAマラウイ事務所

村上 博 所長

石井 博之 協力隊調整員

合志 恭子 協力隊調整員

ボランティア支所

高橋 和哉 協力隊調整員

協力隊員配属先

大蔵省情報処理局

Mr Goraty, 総務・人事担当

高橋信弥 隊員(10年度2次隊・システムエンジニア)

マローサセカンダリースクール

Mr Robert R. K. Mhang, Deputy Head Master

横尾 弘樹 隊員 (11年度1次隊・理数科教師)

大統領府公務員訓練大学

Mr W. G. Mankhanamba, Deputy Director

長瀬 広和 隊員 (10年度1次隊・司書)

ボランティア農業開発局

浅野 健 隊員 (10年度1次隊・自動車整備)

パーメット=PAMET, Paper Making Education Trust, NGO

Mr Lindizga Buliani, Executive Director

福島 尚子 隊員 (10年度3次隊・手工芸)

天然資源環境省鉱山局本部事務所

Mr Leonard S. N. Kalindekafe, Director of Mines

大塚 実 隊員 (10年2次隊・システムエンジニア)

OXFAM 事務所

Ms Nellie Saeluzika, Administrative Secretary

【ザンビア】

在ザンビア共和国日本大使館

中村 義博 特命全権大使

遠藤 賢司 一等書記官

Peace Corps 事務所

Mr Brian Cavanagh, Country Director

VSO 事務所

Ms Kate Greenaway, Programme Director

JICA ザンビア事務所

石川 満男 所長

大田 孝治 次長

工藤 幸男 協力隊調整員

内田 圭二 協力隊調整員

小畑 けい子 協力隊調整員

井上 康子 協力隊医療調整員

協力隊員配属先

カナカントパ地区新農村開発計画局

Ms S. Bumbila, Senior Practical Instructor

Mr R. Judge, Chief Planner

Mr A. Nyirongo, Accountant

Mr Simwami, Agriculture Block Extention Officer

Mrs Simwami, Agriculture Extention Office

Mr Ngoma, Community Development Officer

Mr Josseph A. Buti, K Village School Master

杉山 雅世 隊員 (11年度2次隊・村落開発普及員)

国立科学技術研究所：粘土コンログループ

Dr J Kaoma, Head of Coalbriquette Project

Mr S. Banda, Head of Research and Development

Dr J. Banda, Senior Principal of Scientific Officer (Project Leader)

Mr Sakala, Project Manager, CHITSIME

Mr Mumbi, Director, Enviro-Care Ltd.

勝矢 眞美 シニア隊員 (10年度12月派遣・窯業)

川又 一隆 隊員 (10年度1次隊・市場調査)

加藤 伸明 隊員 (10年度2次隊・陶磁器)

ルサカ国立博物館

Dr Francis B. Musonda, Director

Ms Muleya, Librarian

田島 雅子 隊員 (10年度3次隊・視聴覚教育)

ザンビア文化事業協会

Mr Voice Vingo, Head of Programmes

Mr Enest Cheepa, Project Manager

Ms Chikatula Florence, Community Development Officer

Ms Leoniek Willemse, Dutch volunteer teacher, Mashinyambu Pre-school

Mr Alec Kaputula, Village Headman

柿沼 瑞穂 隊員 (9年度2次隊・村落開発普及員)

パークランズ中高等学校

Mr D. Kaluba, Deputy School Master

本城 和則 隊員 (11年度1次隊・理数科教師)

【英国】

V S O本部

Mr Mark Goldring, Chief Executive

Ms Rachel Bartlett, Head of Directorate

Mr John Nurse, Head of Volunteer Recruitment Office

Mr Steve Chapman, Skills Team Support Manager, Recruit Division

Mr Stuart Malcolm, Placement Advisor for Business and Social Development
Volunteers

Mr Graham Bray, Programme Development Advisor and Manager of the
Programme Evaluation and Development Unit

J I C A 英国事務所

神谷 弘司 所長

佐藤 朋子 職員

【ポーランド】

在ポーランド共和国日本大使館

金安 英造 公使

杉村 悟郎 二等書記官

J I C A ポーランド駐在員事務所

石上 俊雄 所長

菱田 靖 協力隊調整員

Ms Magdalena Bogucka ナショナルスタッフ

協力隊配属先

クラクフ第13番高等学校

Mr Bogslaw Kucharek 副校長

岡田 朋子 隊員（8年度1次隊・日本語教師）

ポーランド柔道連盟ビトム支部

Mr Jozef Wisniewski 支部長（ポーランド柔道連盟会長）

Mr Andrzej Kruszena 副支部長

武田 龍輔 隊員（10年度1次隊・柔道）

7 調査結果

(要旨)

【マラウイ】

(1) 1月28日に発生した交通事故の現場検証を行った。

得た情報を元に、事務所及び協力隊員と共に交通事故再発防止対策について、検討した。マラウイは、人々が都市のリロングエヤブランチアでも、ゆったりと人々が道を歩くような農村的な風景が見られる。一方、車が急増したため、遅速2種類の速度が同一の道路上に混在している。まさしく、いかにこうした現地の事情に適応した交通安全対策を導入するかが課題だ。

現在、マラウイ事務所を挙げて事故再発防止策に取り組んでおり、効果的と思われる多くの具体的な提案が出された。主要点は後述する。4月着任の新隊員の着任時オリエンテーションから、導入される予定である。事務所にて、その後、さらに検討を進めて取りまとめた詳細資料は、本部（事務局）に提出された。同資料は豊富な情報を含んでおり、他の諸国の参考になるものであり、今後、事務局にて活用を進める。

(2) 主にブランチア近郊の隊員の活動視察を行った。全員、活発な活動ぶりであった。

また、アメリカ平和部隊及び、英国VSO事務所を訪問し、意見交換した。詳細については後述する。

【ザンビア】

(1) 上記事故の対応において全面的なご支援をいただいたことに対して、中村特命全権大使および遠藤書記官に、藤田総裁、金子協力隊事務局長の名代として、お礼を申し上げた。その際、中村大使より、御自身の経験を踏まえて、下記の貴重なご助言があった。「事故は常に起きることを想定した現実的な訓練が有効だ。たとえば、①飛行場で、カウンター越しに話をする時、カバンを足下におかずに、カウンターの上におく。人の目につけば、取られない。②通勤で、携帯するカバンには貴重品を入れない。(ケニア、日本人学校関係者の事故の経験から)」など。大いに参考にしたい。

(2) 事務所及び協力隊員と交通安全対策等について話し合った。詳細は、後にまとめる。また、事務所から、ザンビアに於いては、交通安全と共に治安対策、マラリア対策に本格的に取り組んでおり、本部の更なる支援について要望があった。

(3) ルサカ近郊の隊員の活動現場視察を行った。全員、活発な活動ぶりであった。詳細については後述する。

【英国】

- (1) VSO本部を訪問し、ボランティアの募集・選考の現状、及び、ボランティアの活動評価方法について、意見交換を行った。VSOは、隊員確保の一方法としての我が方の現職参加制度や、帰国後の進路相談体制に特に関心があるとのことであった。
- (2) 派遣国の新規採択および派遣終了等の選定についてVSOは、UNDPのHUMAN DEVELOPMENT INDEX (HDI) を基本的参考指標のひとつにしているとの事であり、この点については協力隊として研究する必要があると考える。

【ポーランド】

- (1) 事務所と交通安全策について協議した。日本と交通ルールが異なる点など、今後、新隊員の着任時に、さらに具体的な内容のガイダンスをする準備を進めている。
- (2) ポーランドへの代表的協力分野である日本語教師及びスポーツ（柔道）隊員の活動視察を行った。ソビエト支配の体制の終焉後、国は、市場経済を導入した。優秀な人材の存在と政治的、社会的組織体制が安定していることから、現在順調な経済発展に向かいつつある。現在、当国への日本の協力プログラムとしては、JICAの専門家派遣等のプログラムで経済政策等への知的支援を行う一方、協力隊派遣を通じて、文化・スポーツ面の協力を進めている。協力隊員はポーランド語の修得に格闘しながらも、積極的な活動を行っている。日本の国際協力が効果を挙げつつあることを確認した。

(調査内容詳細)

(1) 交通事故再発防止等の検討

ア マラウイ、網脇隊員の事故現場検証

(ア) 事故と同時刻（午前7時半）に現場観察：

通行車両（ミニバス、バン、乗用車等）数は毎分4～5台。

（必ずしも多くはない印象を受けた。）

30台の車の通過を観察したが、その内一台のミニバスがT字路にて徐行をせず、事故車と同じく、内側車線を切り込むように右折するのを見かけた。

(イ) 道を横断する人々：

毎分3～4人程がパラパラと渡る。時折、友人同士と思われる人達が数人固まって渡る場合も見受けた。

(ウ) 横断に要する歩数：17歩（T字路の根っこの部分）

：12歩（T字路から5メートル離れたところ）

(エ) 事故原因を探る要素等：

宿舎にしていた隊員連絡所から徒歩10分で事故現場にさしかかる。マラウイに到着後、現地訓練を終えて徒歩通勤を始めてから3日目が事故の当日である。

(オ) 首都リロングエの交通事情概要：

歩行者は車道の脇をゆったりとしたテンポで歩いている。マラウイは国全体が農村社会的でゆったりとした生活ぶりである。

一方、車は、前方に障害物がない限り、スピードを上げて走る。

イ 事務所等との検討内容

(ア) 調査団から各事務所及び協力隊員への説明

本部（協力隊事務局）は、現在、交通事故再発防止に向けて事務局全体を挙げて、抜本的な改善策の検討を進めている。派遣前訓練と現地訓練の両方において、より効果的な訓練を実施することが必要であり、具体的な改善策を共に考えたい。特にそれぞれの現地事情に即した訓練プログラムの策定が必要であり、その意味から改善策を在外事務所と活動中の協力隊員から積極的に提案してほしい。諸提案を元にして、本部で、訓練所・在外事務所全体で役立つ資料をまとめる計画だ。

本部の第一番の取り組みとして従来半年毎に在外事務所に送付していた全国の交通事故例及び犯罪被害報告等の情報を、新年度からは、毎月送付し、各在外事務所の参考用に供したい。

(イ) 各在外事務所との話し合いの中で提案された交通事故再発防止策の概要

(3事務所共通のアイデア)

- a 隊員本人の「自己防衛が基本」の意識付けを徹底する。
- b 従来の交通安全対策はバイクの事故対策中心に実施してきており、交通安全委員会においても、単車を貸与されている隊員のみで組織・運営されていたが、今後は自転車と歩行者指導の必要性を踏まえて、交通安全委員会は協力隊員全員を対象にするように進めてゆく。
- c 地区毎の危険場所マップを整備する。
- d 新隊員の現地研修中に、所員あるいは調整員が、交通安全委員と共に危険場所に新隊員を引率して、現場に立って、実地で安全指導を行う。

(マラウイ)

- a マラウイ国内を5地区に分けて、より地域の実情に即した安全対策が図れるように、地区毎に交通安全委員会を設置する。
- b 新隊員の現地研修中に、事務所近くにある旧自動車学校の施設を用いて、シミュレーションによる実地歩行訓練を行う。
- c 交通事故でなくなった隊員の命日に、隊員間で互いに注意をしあう。

(マラウイ・ザンビア)

- a 過去の重大事故のケーススタディーを行い、事務所と隊員と共同作業で原因の究明と事故防止策を研究する。
- b ミニバスに乗る時は、状態の良い車を選ぶ。安全な座席を選ぶ。

(ザンビア)

- a 訓練中にもらった青遺海の会の資料は、見る度に安全管理の緊張感が高まり、役に立っている。(隊員より)

(ポーランド)

- a ワルシャワの市電の踏み切りには、警報機がないところがあり、静かに接近してくる電車には要注意。
- b 前方が赤信号でも車の右折が出来るので、日本の交通ルールと異なることを新隊員に十分指導したい。

ウ まとめとして

最近の事故により、特に当該国であるマラウイでは、事務所、協力隊員とも、厳しい交通環境を再認識して、新たな緊張を感じながら、真剣な再発防止を検討している。ザンビア、ポーランドにおいても、それぞれの現地事情に即した対策を検討している。今後、派遣前訓練と現地訓練との連携を進めつつ、本部、在外事務所の共同作業で一層効果的な事故再発防止策を検討したい。

総じて、事故対策には、人による部分、場所による部分の二面からの検討と対策が必要である。人による部分は、個人個人による自己防衛対策、さらに訓練等による安全意識の向上、及び現地交通事情の知識増進等の角度からの取り組みが求められる。一方、場所による部分は、それぞれの現地の交通事情に関する情報収集による危険場所の指摘等の取り組みが求められる。過去の事故例の徹底分析に基づくケーススタディーなどは有効であろう。

最終的には、交通事故防止は、個人が安全意識を向上させることにより、自己防衛できるか否かによる。今後、どのような方法で協力隊員個個人の安全の意識付けの強化できるか、また、具体的かつ実際的な内容を多く含んだより効果的な訓練ができるかについて、専門家の助言を得つつ検討を進めたい。

(2) 協力隊活動現場視察等

【マラウイ】

●高橋信弥隊員 (10/2システムエンジニア、大蔵省情報処理局)

航空局から依頼のあった搭乗券発給システムの開発を進めてきた。すでに同システムは完成しているが、製品をインストールする機材を依頼元が購入すること

になっていたが、まだなされておらず、製品を納入することができない。契約不履行に直面しながらも、同隊員は極めて前向きに根気よく話し合いを続けており、また同時に、同僚へのプログラミングを指導している。配属当初はコンピューターに無知だった同僚もプログラミングの基礎を取得するに至った。こういった活動成果は、同隊員の温和で柔軟な性格によるところが多いと思われ、配属先との関係も非常に良好で、協力隊への理解度も高い。

問題点は、開発したシステムが無事に納品されるか否かということと、そのあとのメンテナンス、及び配属先の事業改善に意識改革の重要性が認識されていないこととの指摘があった。

●横尾弘樹隊員（11/1理数科教師、マローサセカンダリースクール）

ブランタイヤの北約70km（車で約1時間30分）の村にあるセカンダリースクールで、フォーム1の数学と体育を担当している。また、半年たってから慣れてきたのでクラス担任も任されている。調査団は数学の授業を視察したが、常に生徒を巻き込む彼の授業は活発で、生徒からも好かれている。同校副校長は、マラウイ国にとっての基礎教育の重要性を強く認識しており、同隊員の活動を高く評価している。

同隊員は、約1キロのでこぼこ坂道をマウンテンバイクで下ってマーケットに買い出しに行くが、特に日常生活には不便を感じておらず、また、赴任以来特に大きな病気もなく元気に活動している。今後の彼の活動に期待が持てる。

●長瀬広和隊員（10/1司書、大統領府公務員訓練大学）

大学図書館という要請であったが、実質は小さな町図書館規模（蔵書6,500冊）であり、本人も赴任当初は当惑気味であったらしい。しかし、規模が小さいだけに全体のマネジメントが任されており、その経験に対する同隊員の満足度は高い。将来、同隊員は図書館業界で活躍していくことを希望しており、そのためにも小さな図書館に換えて中央の図書館協会で働くことを希望している。

なお、同隊員は、訓練所入所前に技術補完研修を大きな大学図書館で行ったが、それが必ずしも実際の活動内容（小規模図書館のマネジメント）と合うものではなかったことが不満であり、実状により適した技術補完研修の実施の必要性を指摘していた。要請開拓から配属まで間が空くときは技術補完研修手配前に内容の現地再確認が可能な限りなされるべきであると思われる。

●浅野健隊員（10/1自動車整備、ブランタイヤ農業開発局）

同隊員の同僚の技術は必ずしも科学的に正しいとは言えないものの、材料不足の中で車両を整備する工夫には同隊員の技術を越えるものがあったらしい。しかし、基礎がしっかりしていないため、修理されてもすぐに再修理という事態も少

なくない。そういった状況の中においても同隊員は、リラックスしており、技術の指導よりも、職場の整理整頓、清掃、工具の管理等、日本人ボランティアとして地道に態度で示す協力を行っている。ときに同僚が職場を自発的に清掃・整頓している姿を見て、これまでの活動成果に自信を得たこともあるという。

恒常的なスペアパーツ不足と処理水の垂れ流しに問題を感じながらも、前向きで、地道な努力を続けている。また、事務所の支援についても満足している。

●福島尚子隊員（10/3手工芸、パーメット）

ゾウの糞、バナナやバオバブの樹皮、古紙等、様々な材料で紙製品を製作し、また、新製品の開発を行っている。また、商品の並べ方や釣り銭の準備、受注管理等についても助言を行っている。配属先の経営状態は極めて良好だが、パーメット所長の無計画な受注により同隊員の活動が商品の製作中心となり、本来の要請内容であるカウンターパート育成やデザイン開発に手を付けられない状態が続いている。調査団からは協力隊員派遣の意義について説明し、同隊員の有効な協力活動のための理解を促した。

同隊員は、かかる状況においても、極めて精力的に活動しており、また、同僚との関係も良好である。チャレンジ精神旺盛な彼女の今後の発展を期待したい。

なお、同隊員は1年の活動延長をし、商品デザインの手法の指導を希望している。

●大塚実隊員（10/2システムエンジニア、天然資源環境省鉱山局本部事務所）

配属先においてはコンピュータを使用できる人がおらず、同隊員の活動内容はパソコン講習会の開催が主である。同隊員のような活動は、何代も続けてするより、1代の隊員を多くの場所で行うべきという考えから、後任は要請していない。

配属先は日本に研修生を送りだしたこともあり、日本の援助について期待が高いが、協力隊の派遣と機材の援助を混同しているところが見受けられた。調査団からは協力隊の理念と意義及び日本の技術協力のその他のスキームについて説明した上で、マラウイ国外務省やJICA事務所との緊密な話し合いを提案した。

同隊員は業務を含めて生活全般を楽しんでおり、特に、趣味の自転車（修理に関する国家資格を持つ）を生かして他隊員の自転車走行指導や修理で活躍している。

なお、同隊員の住む地域は比較的裕福な公務員の住宅地となっているため、昨今、盗難が頻発している。同隊員も1度被害にあっており、現在バグラーバーを3重にしている。

※OXFAM事務所（ブランタイヤ）訪問

マラウイにはブランタイヤとムランジェ（ブランタイヤから南東へ約50km）にオフィスがあり、それぞれ5名ずつのスタッフがいる。ブランタイヤでは現地NGOの活動を草の根支援しており、ムランジェでは村民のトレーニングにより現金収入の向上を図っている。

調査団は、OXFAMのように協力隊と同じく草の根活動をしている団体との連携、協力の有効性を強く認識し、今後のより密な連絡を事務所に提案した。

（調査団所感）

マラウイを訪問したのは1月末の死亡事故から2ヶ月弱であり、隊員間の交通安全に対する緊張感は非常に高かったように見受けられた。単車・自転車貸与隊員だけが交通事故の危険にさらされているという認識がこれまでであったが、交通事故は、特に途上国の劣悪な交通事情の中では、誰の身にもふりかかる可能性が大いにあることが実感されたようである。また、今回の事故があった直後に交通安全対策を中心目的とした調査団が派遣されたことで、隊員にも改めて事故の危険性が認識され、隊員の気の引き締めにも効果的とのことである。今後、平時の緊張感をいかに保っていくかが課題である。

調査団がブランタイヤを出発する日の朝、ある隊員の家で夜盗が入ったとの連絡があった。現場へ向かったが、我々が到着したときにはすでに近所に住む3人の隊員が集まっており、被害にあった隊員が警察に届を出す間に、銀行での手続きや片づけ等、一丸となって彼をサポートしている姿が見られた。先般の事故時における隊員同士の迅速で思いやりある対応・助け合いに加え、こういった隊員同士の団結力・連帯感は容易に培われるものではなく、苦楽をともにする仲間だからこそ為し得るものであると感じた。その意味で、79日間の派遣前の訓練は非常に効果があり、今後の訓練についてもこの程度の期間を要すると思われる。

【ザンビア】

●杉山雅世隊員（11/2村落開発普及員、カナカクタパ地区新農村開発計画局）

開拓者家族が入植し、12の村を形成しているプロジェクト地区で農業教育、保健、女性活動に重点が置かれ、同隊員は村民の生活改善にあたる。具体的には、本年1月に着任して以来、職員と村々を回り、問題点を把握し、この3月からは新たに赴任したCommunity Development Officerと今後の具体的な活動計画の策定をしている。12村の内、調査団が視察したK村は地区にある唯一の小学校から最も遠かったが、日本の無償資金協力で学校校舎1棟と教員住宅2軒が建設さ

れ、現在は村民の力で新たにもう1棟建設中である。同隊員は配属先、各村で早くも受け入れられており、関係は極めて良好である。前任者の活動も高く評価されていることから、配属先の協力隊理解は十分と思われる。同隊員は、非常に明るく朗らか、前向きであり、小学校教師の経験を生かして計画中の識字教育普及と保育園運営には大いに期待できる。

●勝矢眞美隊員（10年度シニア・窯業）、川又一隆隊員（10/1市場調査）、加藤隊員伸明（10/2陶磁器）、（国立科学技術研究所）

1970年代から同国で深刻となっている森林乱伐の対策として、農業廃棄物（サトウキビのかす等）から豆炭の活用と、同国で従来使われてきたコンロ「バウラ」を改良した粘土コンロの普及を図る。

現在、歴代隊員・専門家の協力成果として粘土コンロの開発は完了し、普及のために研修・巡回指導を通して生産も少しずつ軌道に乗り始めており、また、販売経路の開拓にあたっている。

勝矢シニアはグループリーダーとしてプロジェクトの全体の企画・運営を、川又隊員は粘土コンロ（商品名ZIKO）の広告・販売の促進、加藤隊員はZIKO生産の指導を担当している。

伝統的に使われてきた火力の強い木炭から、エコロジカルな豆炭への移行は難航し、また、熱効率がよくても長期的な利益に対する意識の低い一般ザンビア人の間にバウラの3倍の値段のZIKOを普及するのは困難である。しかしながら、同グループの活動及び問題意識に賛同し、ZIKOの生産研修に参加する団体や、販売する企業もでてきている。現在、3人のチームワークは極めて良好で、各隊員が持ち味を発揮している今後の発展に期待したい。

●田島雅子隊員（10/3視聴覚教育、ルサカ国立博物館）

同博物館には、JICA研修を民俗学博物館等で受けた司書がおり、その成果による効果的な展示が為されている。教育に重点をおく同国で、小学生の博物館訪問時の視聴覚教育を同隊員が担当している。具体的には、自国文化の尊重を図った工作、クロスロードやJICAカレンダーの写真を利用した国際理解教育、子供たちが実際に手で自国文化に触れることができる「Children's Corner」の企画等、多種に渡る。また、福笑い、折り紙などを通じた情操教育分野の開拓にも力を注いでいる。

同隊員はニャンジャ語の習得に積極的で、その姿勢が評価されて子供たちの信頼もあつく、近所の畑仕事の手伝いなども通して民衆志向を体現している。

ただし、配属先の協力隊理解にやや誤解があり、機材の供与を強く希望している。調査団からは、JICAの各協力スキームの紹介と協力隊事業の意義について

説明し、ザンビア国外務省及びJICA事務所との入念な話し合いを提案した。

●柿沼瑞穂隊員（9/2村落開発普及員、ザンビア文化事業協会）

持続可能な農業開発を目指すNGOにて、保育園運営、「種の銀行」事業、裁縫教室、養鶏教室等、地域の様々な課題に取り組む。保育園においては、オランダ人ボランティアが保母として活動しており、彼女とともに周辺村長との活発な話し合いを進めながら、保育園の運営にあたっている。オランダ人ボランティアとの交流は、彼女にとって非常に貴重な情報と考え方をもたらしている。「種の銀行」は、種を農民に貸し付け、収穫後に回収するものであるが、同隊員のこれまでの経験を生かした聴き取り調査を記録し、将来の協力のための基礎資料としている。同隊員の発案で始まった裁縫教室は非常に好評で、1日2時間を毎日の1年間のコースに21人の20代女性を通う。当初は同隊員自らが講師を務めたが、今ではルサカから講師を呼ぶことに成功している。養鶏教室では、フルタイム1年間のコースで、理念から実習まで行い、遠くから毎日通う受講者もいる。

3年目に入った同隊員は電気・水道のない任地で現地食のシマ（メイズ）を食べ、レンジェ語を解し、業務上も生活全般においても土地に慣れ、ストレスの発散方法についても心得ており極めて安定している。また、問題分析能力・企画力についても長けており、今後のさらなる活躍が大いに期待できる。

●本城和則隊員（11/1理数科教師、パークランズ高等学校）

活動初年から中学理科と高校科学を担当し、本年2月からは他のザンビア人教師とほぼ同僚の授業数を持つ（週41、当初は25）。流暢な英語、丁寧な板書を見るに、相当入念な授業準備がうかがえ、同隊員の積極姿勢が分かる。また、授業のほかにもスポーツクラブに参加したり排水溝の設置手伝い、土曜日の日本語教室と補習、問題集の編集と、活動の幅が広く多忙だが、同隊員は生活・活動に充実感を覚えている。さらに、現地語の習得にも積極的で、生徒から好かれ、配属先からも非常に高い評価を得ており、また、近所との関係も良好である。

配属先の協力隊理解も明確で、今後同隊員の一層の活躍が期待される。

※アメリカ平和部隊訪問（ルサカ）

アメリカ平和部隊でも交通安全は重要な課題となっている。過去の3ヶ月にアフリカで3名が交通事故で死亡しており（アフリカの全体数は2,500名）、先日開催されたガーナでの所長会議でも議論された。

ザンビアの米国平和部隊は5地域のリーダーに4輪車が貸与され、その他は自転車を利用しているが、単車は貸与されていない。

治安については、ボランティアのほとんどが地方の村に配属されており、治安

の悪化が著しい都市に比べれば比較的安全とのこと。

短時間ではあったが、非常に貴重な意見交換となった。今後とも、活動の連携及び情報交換のために、他のボランティア団体との積極的な関わり合いが促進されるべきと思われる。

※VSO事務所訪問（ルサカ）

ザンビア国内には教師を中心としたVSOボランティアが約65名活動中で、近年は深刻な交通事故は起きていないが、VSOでも安全対策強化が急がれている。

VSOでは、住宅から生活必需品の購入できるところまでの距離が2km以上5km未満のボランティアには自転車を、5km以上又は活動の性格上必要とみなされるボランティアに単車が貸与されている（現在12名）。単車はヘルメットの着用が義務づけられており、違反者は即帰国と決められている。

（調査団所感）

治安・交通安全対策について事務所と協議の結果、事務局・事務所・隊員各自がすべきことが明確になった。また、日本大使館、米国平和部隊、VSOへの訪問により、貴重な参考意見が得られ、今後の安全対策に資することとしたい。特に、VSO事務所は、安全対策に真剣に取り組み始めている。今後も他の団体との積極的な協議・情報交換が望まれる。

本調査団が視察した協力隊員の活動はいずれも配属先から高く評価されており、各隊員も公私にわたって非常に良好な人間関係を築いている。こうした隊員の活動姿勢は、協力隊の理念である民衆志向を実行している表れであり、各隊員の実りある活動及び交流が大いに期待できる。

【ポーランド】

●岡田朋子隊員（9/2日本語教師、クラクフ第13番高等学校）

同隊員が日本語教師を務める2つの高等学校の内のひとつを視察した。

第13番高等学校は、語学教育に力を入れており、現在9言語の学習が可能である。日本語はかつて同校の必須科目のひとつであったが、2年前から高校卒業資格試験（マトゥーラ）の選択科目から外されてからは趣味として受講する学生のみとなった。しかしながら、登録した12名の内、毎回出席する6名は非常に熱心で、活発で楽しい授業が展開されている。ポーランド滞在が4年近くになり、同隊員のポーランド語も流暢で、学生からの信頼も熱い。

配属先からは非常に高い評価を受けており、同隊員の授業を目的に同校に入学した学生もいるらしい。この7月の任期終了が惜しまれている。

また、同校副校長によると、日本語教育はポーランドにおいて過去の閉ざされた社会から世界へ開かれた社会へ変わるために意義があるとのこと。今後も、ポーランドにおける日本語教育向上に向けて努力するが、日本からのサポート（カリキュラム作成など）を希望している。

●武田龍輔隊員（10/1柔道、ポーランド柔道連盟ビトム支所）

初心者と中級クラスの稽古を視察した。

初心者クラスを参観している受講生の母親の話では、柔道は人気があり、子供の発育にもよく、また武道の稽古がしつけにも役立っているとのこと。

配属先はポーランドでも名門の柔道クラブで、責任者はポーランド柔道連盟の会長も務める。武道精神のひとつとして、礼儀を重んじる同隊員と柔道テクニクの技力向上のみを期待する同クラブとの間に理解の違いがあり、活動上の悩みは多い。また、ポーランド語コミュニケーションの難しさにより、配属先責任者が同隊員抜きで何かと決定してしまうところにも、同隊員は困惑している。後任については、当初要請しない方向であったが、本調査団との話し合いの場で後任要請があげられた。調査団からは同隊員及びポーランド駐在員事務所との十分な話し合いを提案した。

（調査団所感）

ポーランドにおける協力隊の活動意義について、駐在員事務所は「知的支援」と「地方開発」をキーとしている。アジアやアフリカ、中南米等の地域における農業や保守操作といった直接的な開発援助と並んで、上記2点に絞った同国における協力隊活動が「社会の発展」に貢献する意義は大きいと思われる。

また、配属先の協力隊理解が不十分なところが見受けられた。例えば、武田隊員のように日本のボランティアが提供できる柔道の協力内容に教育的意味合いが大きいことが配属先に十分理解されていない場合は、活動上大きな制約となる。ついては、要請開拓時に、協力隊派遣の意義と想定される協力内容について、念入りの話し合いが必要であることが再確認された。

（3）VSO本部との意見交換

ア 募集・選考について

応募可能年齢は20～68歳までで、参加者の平均年齢は36歳。要請の内、特に顕著なのはBSD（Business and Social Development）と初等教育分野で、昨

年度と比して急激な増加が見られる。数ある海外ボランティアの中で、VSOは技術能力をより重視し、要請に応えられるボランティアの発掘を明確な募集方針としている。そのため、資格と経験を必須条件とし、年々平均年齢は上昇している。現在は、年間約1,300件の要請に約5,000名の応募者があるが、ボランティアの質を維持するために、目標充足率を60～70%に設定している(99-00年度は890名が合格する見込み(約68.5%))。

応募は随時可能で、平均すると1週間に60名程度の面接がある。応募希望者には事前にVSOの概要と要請内容に加えて、求められる人材を解説する資料を配布し、応募希望者がVSOに適格かどうか自己判断させている。VSOが最も注意を払うのが、応募者と要請のマッチングで、おおよそ協力隊と同じ選考過程を経るが、面接の結果、合格者には2～3の要請を提案して選ばせる。その後、同意/辞退書の提出をもって採用/不採用が決まる。なお、最終決定の前に、応募者の犯罪歴について確認される。

VSOでは応募者の人柄・適性と並んで技術能力を重視するため、職歴があつて技術力のある応募者獲得に力を入れたいが、30代半ばの「潜在的」応募者が職を離れることは非常に困難で、この点で協力隊と問題を共有している。

イ 評価方法について

(ア) 個人レベル(要請内容と各隊員活動とのマッチングについて)

実施時期：規定のレポート様式に基づいて、着任後6ヶ月目、1年後、1年半後、2年後(帰国時)に作成する。

内容： 協力隊と概ね同様。活動内容、目的達成度、問題点の記述

作成者： 協力隊と異なる。隊員と相手国の隊員の雇い主(業務上の上司)の両者が、共同で作成し署名する。

(イ) 国別協力計画レベル

実施時期： 一年に一度(毎年3月31日)

内容： 1) 過去一年の派遣数の内、何件の隊員の配属が国別協力計画に合致していたか

2) 国別開発目標にどの程度達成したか

3) 各開発目的における発展達成度について

作成者： 在外事務所の国別計画作成担当者が、隊員から情報提供を受けつつ作成する。

(ウ) VSOのセクター開発目標レベル

実施時期： 一年に一度(毎年3月31日)

内容： 1) 過去一年の派遣において、何件の隊員の配属がVSOのセクター開発

目標に合致していたか

2) VSOのセクター開発目標に対する達成度について

作成者： 在外事務所の所長、及び国別計画作成担当者

(エ) VSOの最上位目標レベル (より均衡のとれた、公平な世界の実現)

実施時期：一年に一度 (毎年3月31日)

- 内容：
- 1) 総派遣数
 - 2) 各協力目標への隊員派遣数の比率
 - 3) 貧困層への隊員派遣数の比率
 - 4) VSOのセクター開発目標への隊員派遣数の比率
 - 5) 最も顕著な協力成果 (主要10項目を列記)
 - 6) その他、国際理解の推進、経済発展、協力効果等について

作成者： VSO本部、事務局長、開発計画策定担当部長

(調査団所感)

VSOは、協力隊と募集方針は大きく異なるが、実務経験者確保や選考時の要請のマッチングなど、協力隊と問題を同じくするところがある。特に、応募者に対してVSOが求める人材をはっきりと示して、応募者に動機と適性を自己確認をさせる点は、質の高い応募者開拓に極めて有効と考えられ、今後の募集戦略の参考としたい。

経由地を利用したVSO訪問であったため、短時間の意見交換をなしたが、非常に有意義であった。

以上

マラウイ国派遣隊員配置図

JICA MALAWI OFFICE

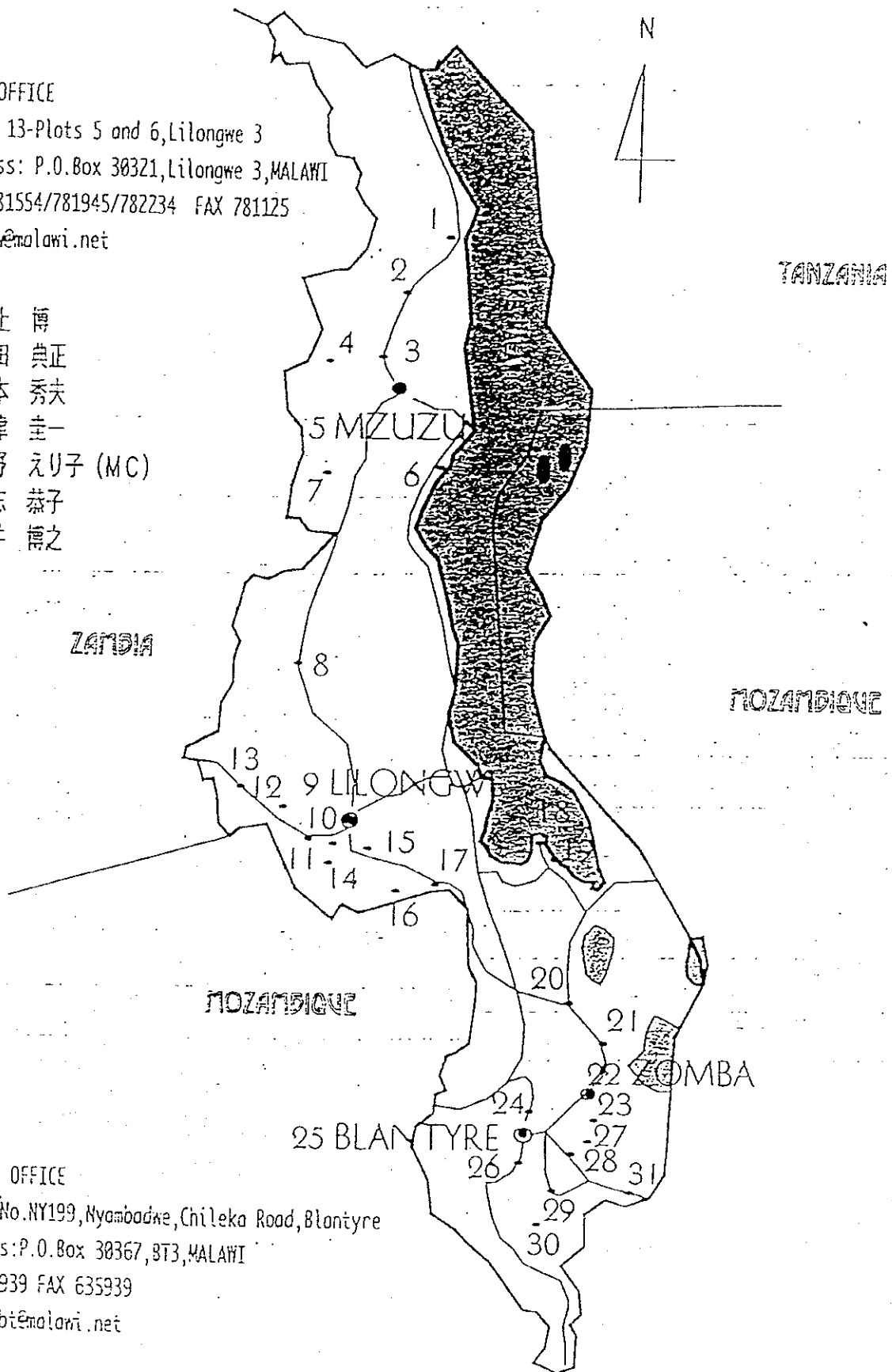
Address: Area 13-Plots 5 and 6, Lilongwe 3

Postal Address: P.O. Box 30321, Lilongwe 3, MALAWI

☎ 781644/781554/781945/782234 FAX 781125

e-mail jicamm@malawi.net

所長	村上	博
所員	藤田	典正
所員	塚本	秀夫
所員	須津	圭一
調整員	矢野	えり子 (MC)
調整員	合志	恭子
調整員	石井	博之



JICA/JOCV SUB OFFICE

Address: Plot No. NY199, Nyambadwe, Chileka Road, Blantyre

Postal Address: P.O. Box 30367, BT3, MALAWI

☎ 634982/635939 FAX 635939

e-mail jicambi@malawi.net

調整員 高橋 和哉

2000年 2月01日現在

マラウイ事務所

派遣中隊員 73名

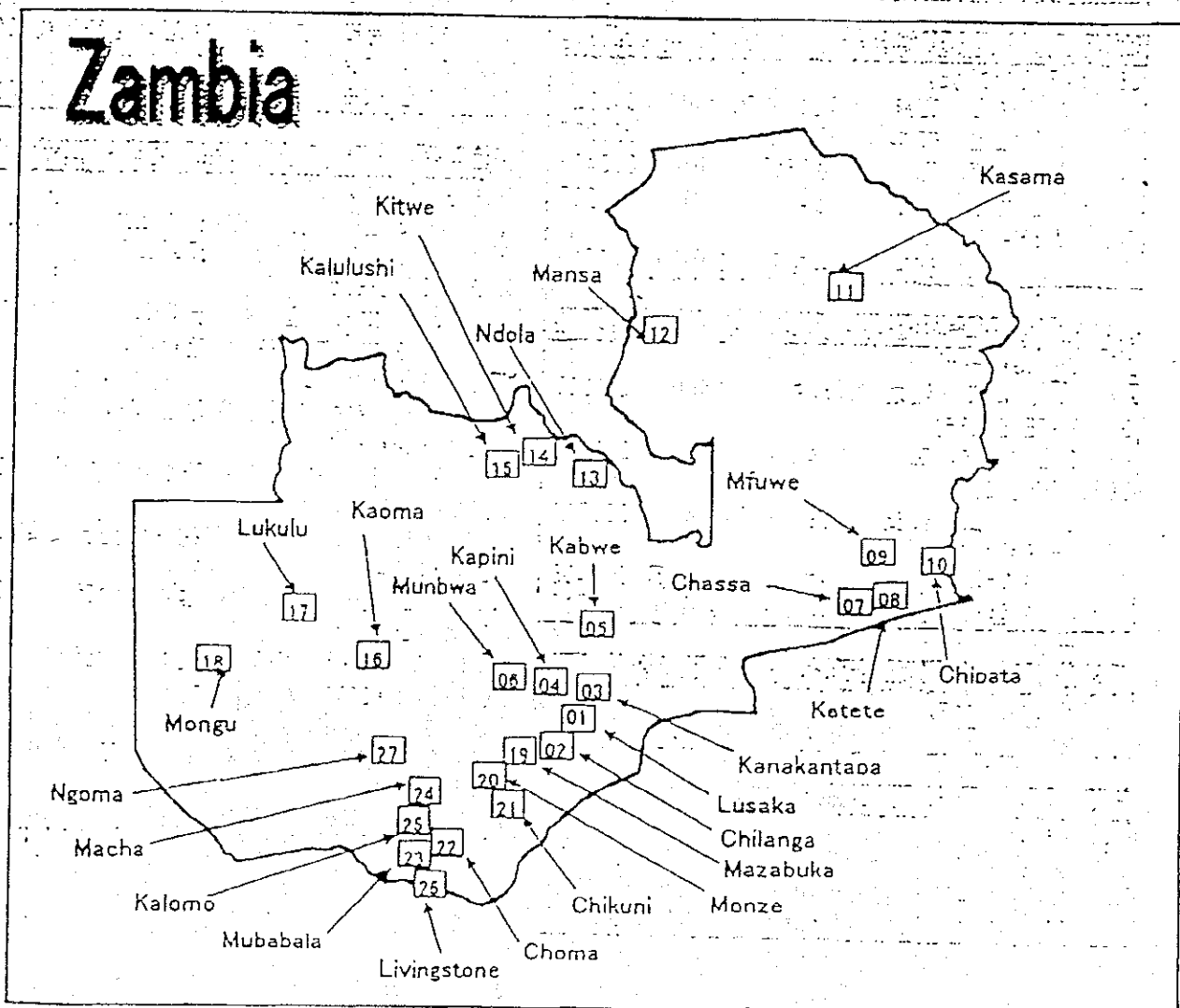
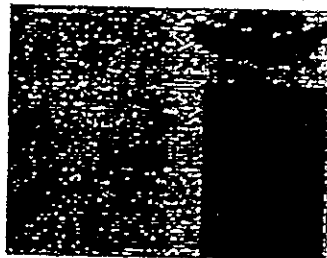
(注) ○は女性隊員を示す (男性35名・女性38名)

1. LIVINGSTONIA (リビングストニア) 1名 09/1 三輪 真史 (理数科教) ~000709	18. CAPE MACLEAR (ケープマクレア) 1名 11/1 ○橋本 文翠 (文化人類) ~010714
2. MZOKOTO (ムゾコト) 2名 10/2 後藤孝一郎 (理数科教) ~001208 11/2 藤本 祐也 (理数科教) ~011208	19. MONKEY BAY (モンキーベイ) 1名 10/3 ○吉田 友子 (航海術) ~010406
3. EKWENDENI (エクエンデニ) 1名 10/2 ○住田 有子 (薬剤師) ~001208	20. LIWONDE (リオンデ) 1名 10/2 ○上好 貴子 (生産調査) ~001208
4. EUTHINI (エウティニ) 1名 09/2 大久保直俊 (理数科教) ~001210	21. MALOSA (マローサ) 1名 11/1 横尾 弘樹 (理数科教) ~010714
5. MZUZU (ムズズ) 3名 09/1 末吉 史明 (養殖) ~000214 10/3 谷 征宏 (家畜飼育) ~010406 11/2 ○大山美佐子 (養殖) ~011208	22. ZOMBA (ゾンバ) 9名 09/3 ○深見直希子 (獣医師) ~000407 09/3 佐野 浩示 (理学療法) ~000407 09/3 ○岩城ゆかり (薬剤師) ~000407 10/1 ○寺井加奈子 (理数科教) ~000715 10/1 ○山根 美紀 (栄養士) ~000715 10/2 ○田中かおり (地質調査) ~001208 10/3 ○平木 聡子 (SE) ~010406 11/2 中村 泰成 (森林経営) ~011208 11/2 坂田 蔵人 (サッカー) ~011208
6. TUKOMBO (トゥゴンボ) 1名 11/2 滝口慎二郎 (理数科教) ~011208	23. MAGOMERO (マゴメロ) 2名 09/3 ○草刈 麻子 (村落開発) ~000407 11/2 ○大塚 雅子 (野菜) ~011208
7. MZIMBA (ムジンバ) 2名 11/1 伊藤 等 (獣医師) ~010714 11/1 登 健太郎 (理数科教) ~010714	24. LUNZU (ルンズ) 2名 09/3 ○倉科かすみ (臨床検査) ~000407 09/3 ○滝口千佳子 (薬剤師) ~000407
8. KASUNGU (カスング) 5名 09/2 ○吉田 朋代 (薬剤師) ~000310 10/1 ○安藤智恵子 (生産調査) ~000715 10/2 ○綿織 拓美 (獣医師) ~001208 10/3 ○隅谷佐知子 (理学療法) ~010406 10/3 坂本 幹 (サッカー) ~010406	25. BLANTYRE (ブランタイヤ) 13名 09/3 ○石川 美穂 (作業療法) ~000407 10/1 浅野 健 (自動車整) ~000715 10/1 秋山 政博 (無線通信) ~000715 10/2 高橋 信弥 (SE) ~001208 10/3 宇佐美雄二 (電気機器) ~010406 10/3 ○香西美保子 (測量) ~010406 10/3 ○福島 尚子 (手工芸) ~010406 11/1 田村 博 (建築) ~010714 11/2 ○網島 泰寿 (理学療法) ~011208 11/2 ○山下美代子 (臨床検査) ~011208 11/2 林 祐司 (自動車整) ~011208 11/2 大澤 昌和 (SE) ~011208 11/2 西尾 卓也 (観光業) ~011208
9. LILONGWE (リロングウェ) 6名 シニア 奈良部辰雄 (野菜) ~001207 09/2 藤田 勉 (ハシクツ) ~991210 09/3 ○北原奈緒美 (婦人子供) ~000407 10/1 荒川 浩次 (電気機器) ~000715 10/2 大塚 実 (SE) ~001208 10/3 ○青木 真美 (理学療法) ~010406	26. MPENBA (ンペンバ) 1名 10/1 長瀬 広和 (司書) ~000715
10. NPING (ンピング) 1名 11/1 宮本 常夫 (野菜) ~010714	27. NGULUDI (ングルディ) 1名 10/3 ○大崎 元代 (薬剤師) ~010406
11. CHITEDZE (チテゼ) 1名 10/3 大林 幸徳 (自動車整) ~010406	28. MIROLONGWE (ミゴロンゲ) 1名 10/2 藤江 拓 (家畜飼育) ~001208
12. NAMITETE (ナミテテ) 1名 10/3 ○蟹谷 和見 (臨床検査) ~010406	29. THYOLO (テョロ) 1名 11/1 ○大木 奈美 (獣医師) ~010714
13. MAGAWA (マカワ) 1名 11/2 田中 謙介 (理数科教) ~011208	30. MAKWASA (マクワサ) 2名 10/3 ○清島みどり (薬剤師) ~010406 11/2 ○金井美愛子 (臨床検査) ~011208
14. LIKUNI (リクニ) 1名 11/2 ○木曾 正子 (薬剤師) ~011208	31. MULANJE (ムランジェ) 1名 10/2 ○安藤 由香 (薬剤師) ~001208
15. NATHENJE (ナテンジェ) 1名 10/2 ○谷島 緑 (村落開発) ~001208	
16. LOBI (ロビ) 5名 10/2 ○松浦 綾子 (保健婦) ~001208 11/1 ○青木 宏子 (病虫害) ~010714 11/1 後藤 裕人 (果樹) ~010714 11/1 ○佐々木 都 (土壤肥料) ~010714 11/1 高田 淳也 (野菜) ~010714	
17. DEDZA (デツヂ) 3名 09/2 ○江上三香子 (獣医師) ~001210 09/3 石島 利彦 (自動車整) ~000407 10/1 松宮 和浩 (果樹) ~000715	

ザンビア国派遣隊員配置図

2000年3月1日現在

派遣中隊員56名（内シニア隊員4名）



ザンビア国派遣隊員配置図

派遣中隊員 計56名 (内シニア隊員4名)

(2000年3月1日現在)

東部州 (計5名)			
01. LUSAKA (ムカ)			
9/3 藤田 良治	視覚教育	010406	
10/1 川又 一隆	市場調査	000713	
10/2 加藤 伸明	陶磁器	001207	
10/2 今井 芳樹	編集	001207	
10/7 勝矢 真実	グループリーダー	001207	
10/7 山本 伸二	理数科教師	000428	
10/3 鈴木 啓司	市場調査	010405	
10/3 田島 雅子	視覚教育	010405	
11/1 中村 弥生	理数科教師	010712	
11/2 加藤 朋子	臨床検査技師	011207	
11/2 柴田 玲子	音楽	011207	
11/2 山本 明子	薬剤師	011207	
02. CHILANGA (チンガ)			
11/1 本城 和則	理数科教師	010712	
03. KANAKANTAPA (カカカンパ)			
11/2 杉山 雅世	村落開発普及員	011207	
04. KAPINI (カピニ)			
9/2 柿沼 瑞穂	村落開発普及員	001208	

中部州 (計5名)			
05. KABWE (カブウェ)			
10/7 杉山 正彦	理数科教師	000329	
10/2 堀池 知祥	農家土木	001207	
10/3 松浦 直哉	家畜飼育	010405	
11/2 井出 和宏	数学教師	011207	
06. MUNBYA (ムンブヤ)			
11/1 大倉 美宗	理数科教師	010712	

南部州 (計5名)			
07. CHASSA (チャッサ)			
10/2 齊藤 雅之	理数科教師	001207	
08. KATETE (カテテ)			
9/2 藤浦 淳	理数科教師	001208	
09. MFUWE (ムフウェ)			
9/1 入山 仁史	生態調査	000709	
10. CHIPATA (チパタ)			
10/3 中谷 香	村落開発普及員	010405	
11/1 西條 玉恵	理数科教師	010712	

北部州 (計1名)			
11. KASAMA (カサマ)			
9/3 小原 弥	自動車整備	000406	

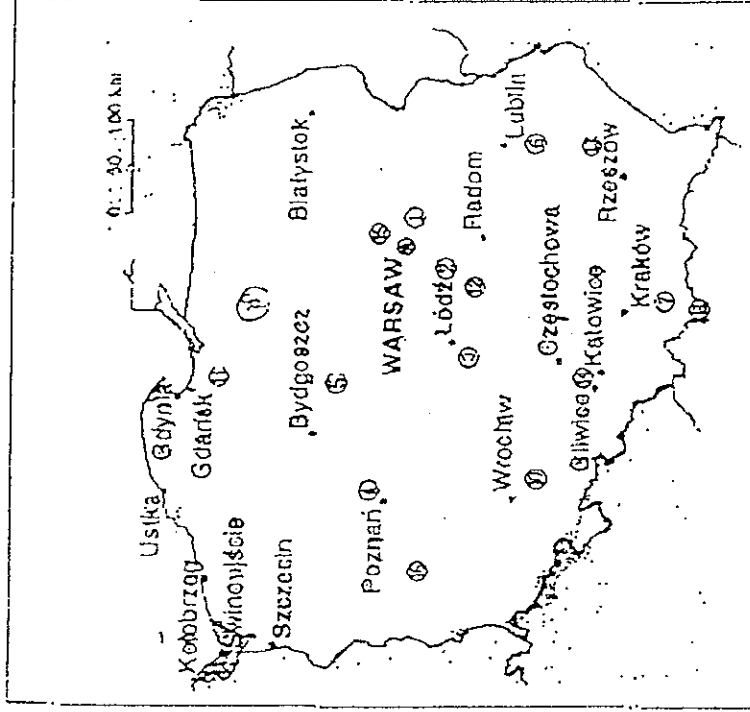
西部州 (計3名)			
12. WANSKA (ワンサ)			
10/2 本間 敦	理数科教師	001207	
10/3 藤井 慶裕	自動車整備	010405	
11/1 永井 慈史	理数科教師	010712	

東部州 (計3名)			
13. NDOLA (ンダラ)			
11/1 吉田 嗣	競技補装具作製	010712	
14. KITWE (キツウェ)			
10/1 野溝 浩太郎	建築製図	000713	
10/2 福島 貢樹	土木設計	001207	
10/2 一志 康洋	インżyniニ7	001207	
15. KALULUSHI (カルクシ)			
11/1 谷島 新	理数科教師	010712	

西部州 (計10名)			
16. KAOMA (カオマ)			
10/1 川崎 純二	理数科教師	000713	
17. LUKULU (ルクルク)			
10/2 飯島 太三登	木工	001207	
10/2 佐々木 朋子	陶磁器	001207	
11/2 濱田 亜紀	婦人子供服	011207	
18. MONGU (モンク)			
9/1 平野 敏夫	野菜	000709	
9/2 大泉 豊章	稲作	001208	
10/7 金澤 弘幸	稲作(グループ)	000928	
10/2 片岡 久恵	村落開発普及員	001207	
11/1 塚本 健治	理数科教師	010712	
11/2 米田 一善	理数科教師	011207	

南部州 (計10名)			
19. HAZABUKA (ハザブカ)			
10/3 吉川 拓也	農家土木	010405	
11/2 北野 全彦	皮革工芸	011207	
20. MONZE (モンゼ)			
9/3 太田 極	自動車整備	000406	
11/2 宮本真千子	理数科教師	011207	
21. CHIKUNI (チクニ)			
10/2 浦木 亨弘	理数科教師	001207	
22. CHOMA (チョマ)			
9/3 荒 俊	理数科教師	000506	
23. MUBABALA (ムババラ)			
10/3 小林 恭恵	村落開発普及員	010405	
24. MACHA (マチャ)			
9/2 宮川 貴	理数科教師	000731	
25. KALOMO (カモ)			
11/1 高橋 淳子	理数科教師	010712	
26. LIVINGSTONE (リビングストーン)			
10/3 曾江 哲也	インżyniニ7	010405	
10/3 岩橋 健	自動車整備	010405	
27. NGOMA (ンゴマ)			
10/1 小野 美砂	環境教育	010713	

2000年3月1日



① WARSZAWA (ワルシャワ) 9名

- 事務所長 石上 俊雄
- 協力員 藍田 新
- 専門員 リーダー
- 専門員 東條 浩彦
- 専門員 北澤 成文
- 専門員 折田 秀夫
- 専門員 中村 英士夫
- 専門員 折田 直哉
- M. 員 09/2 中村 史絵

～0102
～0103
～0004
～0103
～0000
～0010
～0003
～001200

② ŁÓDŹ (ワジツ) 3名

- 10/1 川瀬 俊世
- 10/2 斎藤 川之
- 11/2 藤原 昌

～010714
～001208
～011207

③ ALEKSANDROW (アレクサンドルフ) 1名

- 10/3 茨城 清美

～010406

④ POZNAŃ (ポズナン) 1名

- 11/1 岡 理世

～010713

⑤ TORUŃ (トルン) 1名

- 10/2 中山 祐子

～011208

⑥ KRAKÓW (クラコフ) 1名

- 08/1 岡田 朋子

～000715

⑦ NOWY TARG (ノビタルグ) 1名

- 10/1 延月 昌

～010714

⑧ JASZĘDZIE (ヤシエンビエ) 1名

- 11/2 古澤 世規

～011207

⑨ WROCLAW (ヴロツワフ) 2名

- 11/1 赤木 真帆
- 10/3 佐藤 崇

～010713
～010406

⑩ GDANSK (グダンスク) 1名

- 11/1 山川 紫子

～010713

⑪ NOWOSOLNA (ノボソルナ) 1名

- 09/3 小野内 亮

～000630

⑫ TORUŃ (トルン) 1名

- 11/1 長島 哲也

～010713

- ⑬ LANCIUT (ランツォト) 1名
09/3 平野 賢士 送 年 ～000407
- ⑭ BYTOM (ビトム) 1名
10/1 武田 龍馬 送 道 ～000714
- ⑮ LEGIONOWO (レキョノボ) 1名
10/1 名口 正浩 送 道 ～000714
- ⑯ SWIEBODZIN (シュフイェビジン) 1名
10/2 中島 邦宏 送 道 ～001208
- ⑰ NIEJSKA GÓRKA (ニェイシヤゴウカ) 1名
11/2 森中 太心 送 道 ～011207
- ⑱ NORAG (ノラグ) 1名
11/2 飯田 浩史 送 道 ～011207

